

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今となつては、通俗名曲に墮したともいわれかねないベートーヴェンのピアノ・ソナタ「月光」に、どれほどの愛好家がこころ動かされるのだろう。

ことはオーケストラ曲でも同じようだ。愛好家にとつては、いまさら「運命」や「田園」ではないのだろう。「第九」ですら「一万人の第九」などと、ことさらにオオギョウなタイトルをつけなければ世間が振り向いてくれなくなつてしまつた。

かつてのように音楽のみに純粋に感動を覚えるひとびとはいるのだろうか。音楽に深く関わつていればいるほど、⁽¹⁾素直に楽曲それ自体に興味を覚えるのが難しい時代ではなからうか。リサイタルで「月光」が奏されても、聞こえて来るのは演奏についての分析的な批評だ。音楽自体の素晴らしさを伝える声はなきに等しい。新録音がリリースされると「斬新な解釈」、「^bリンジョウ感あふれる録音」等々、講釈ばかりが耳に入る。その楽器から紡ぎ出される音にこころ震わされた、などというものなら、「素人か」と小ばかにさえされそうだ。（1）

こうした現状は、わたしたちの耳が肥えてしまつたからなのか。立派な演奏や録音に接しすぎて、並の解釈や音では満足できない身体（耳）になつたようだ。

たしかに、日本人のみよつて初めて演奏された大正一三（一九二四）年の「第九」が、今日のようなレベルでの演奏だつたか、というと甚だ疑問ではある。ラヂオや蓄音機を通して聴こえてくる音楽は雑音にまみれていたことだろう。

しかし、だからこそ、音楽のまことに触れようと、ひとびとは己が感性を研ぎ澄ましたのではなかつたか。そこに音楽がある、というだけでこころ打たれたのも、人生が変わるほどの衝撃を受けたのも、かれらのところが新たな **A** に開かれていたからにはかならないのではないか。（2）
だとすると、今を生きるわたしたちの感受性はいつたいたうしたというのだろうか。

おそらくその変化の根底にあるものは、音楽が商品となつたゆえに違いない。わたしたちはいつの頃からか、音楽を消費することが当たり前の世界を生きるようになってしまつた。いまや音楽に関するいつさいが市場にある。創ることにおいても、演奏することにおいても、聴くことにおいても、教えることにおいても、習うことにおいても、だ。そして、そこには市場のニーズなるものが存在する。ニーズというものは、既にそれが何であるか知られているところに生まれる。

ところが真の芸術は、それがひとびとの目の前に現れるまで、そのようなものがこの世に存在するとは想像すらされなかつたがゆえに、芸術たりうる。したがつて、そもそもニーズの存在しようがない。だつて、まだ誰もそれを知らないのだから。

ならば、近ごろの音楽界に感動が足りないのは、真の芸術たりうる新たな響きが生み出されていないからなのか。

そんなことはない。⁽²⁾話は逆だ。「それについては知っている」という消費者としての立ち位置が、わたしたち自身のところ（耳）を曇らせているからだ。

「私は私を欲しているか、自分のことを知っている」という己に対する傲慢が、自身の感覚を鈍らせている。つまり自らニーズを生み出すことよって、かえってわたしたちは未知なる世界への扉を閉ざしている、といえはしまいか。（3）

Bに溢れかえる音楽は、⁽³⁾消費者としてのふるまいをわたしたちに求める。だが、いったんその立場を受け入れてしまうと「差し出された商品

を自らの価値観で査定する」という消費の罫から抜け出せなくなる。あらかじめ用意された物差しで値踏みされる芸術（音楽）が、どうして誰も見たこともない世界を開示できよう。

レッスンだって同様だ。このどこかに「私は、これから私が何を習おうとしているか知っている」という思いはないだろうか。「私が何を学びたいと望んでいるかは、私にとって自明のことだ」と自らへの驕りが生じてはいないだろうか。（4）

レッスンを、市場に提供された「演奏スキルを身につけるためのサービス」と捉えるなら、それもアリだ。でも、そうであるかぎり感動的なレッスンもなければ、音楽を奏するうえでの⁽⁴⁾ブレイクスルーを経験することも難しかろう。「今はできなくとも、いずれそれができるようになると知っていること」ができて、嬉しくはあるうが感動はしまい。なにより、既に知ることができるようになることを、ブレイクスルーとはいわない。「それができるようになって、初めてそれが何かを知った」とき、ひとは真のブレイクスルーを果たす。その**C**は音楽的感動をも、もたらすはずだ。

音楽（芸術）とひとの出会いが感動的であるのは、（思想家・内田樹氏の表現に倣うなら）それが新たな時間と空間を生成し、そんなものがあるとは想像すらしなかった存在がそこに立ち現れるからだ。いま目の前にあるものとは違う世界との通路を穿ち、⁽⁵⁾カキヨウすることこそが芸術の本質にあるものだ。だから、⁽⁵⁾貧しさと戦争を生きた少女は、音楽に触れ、今自分のいるこ、こだけが世界のすべてではないことを悟った。それこそが**D**ではなかったか。それは、それまで知ることのなかった新しい生へとつながる希望だったはずだ。

「知っている」という思いあがりに、芸術が感動の扉を開くことなどあるはずがない。⁽⁵⁾どうやら不足しているのは、音楽に対してへりくだる柔らかなところらしい。

わたしたちは自らに向かつてもう少し謙虚に生きたほうがよいのかもしれない。再びこの世界に感動を取り戻すために……。⁽⁶⁾なにも「受け手のところが純であれば、ヘタな演奏でも感動は生まれるはずだ」などと、ナイーブな論を展開したいわけではない。いうまでもな

く、クラシック音楽において演奏家の E は重要だ。彼らはいつも楽譜と格闘している。楽器あるいは声を自由に A ヤツリ、思い通りの音を出せるようにと日々過酷な訓練も怠らない。楽譜の向こう側に隠された音楽の真実に少しでも近づいたためだ。彼らにはそこから紡ぎ出される音に全責任を持つことが求められている。誰に求められているのか？（5）

音楽を志す者なら一度は誰もが耳にすることがある。「作曲家の意図した音楽をいかに再現できるかこそが、演奏家の使命である」と。だが ⁽⁷⁾ それは必ずしも真実ではない。

こんなことをいうと多くの同僚から非難ごうごうであることを承知で書いてしまおう。バッハは自分の音楽の価値をホントには分かっていたはずだ。モーツァルトも自らの音符の意味を完全には理解できていなかったことだろう。ピアノの名手ベートーヴェンが弾く自作のソナタは決して理想的なものではなかったといっている。

じつは五線に落とし込まれた音符たちも、作曲者が音楽そのものと格闘した末にこの世界に姿を ^{あらわ} 顕したものだ。それはこの地上では生まれたての音楽ともいえる。だから生みの親といえども、その音楽がわたしたちの世界でどのように成熟するのか、本来はどのような姿であるべきなのか、本当は分かっている。演奏家は、作曲家たちが地上に招くために格闘した音の e コンセキ（音符）をたどって、聴き手という仲間とともに「今まさに生成しようとする音楽」との交歓を試みている。もちろんそれが上手な演奏であるにこしたことはない。でも、書き手（作曲家）、読み手（奏者）、聴き手がスクラムを組んで音楽そのものに至ろうとするとき、それがいかなる演奏であれ、そこにかげがえのない響きが生まれる。それは音楽それ自身が促す共同作業の果実ともいえるものだ。ときに拙い演奏においてさえ、ひとが音楽にこころを揺さぶられる秘密がそこに隠されている。演奏の巧拙が音楽のすべてではないとはそういうことだ。

（大嶋義実『演奏家が語る音楽の哲学』による）

（注）貧しさと戦争を生きた少女Ⅱ 本文より前の部分で、少女（実は筆者の母親）が学校の教室で蓄音機から流れ出たピアノの音を初めて聴いた時のエピソードが記されている。

問(一) 傍線部 a～e のカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a || 1

b || 2

c || 3

d || 4

e || 5

a オオギョウ

- 1 びっくりギョウテンする。
- 2 ドイツ文学にツウギョウする。
- 3 一点をギョウシする。
- 4 恐ろしいギョウソウに変わる。
- 5 カギョウを継ぐ。

b リンジョウ

- 1 キンリン諸国と同盟を結ぶ。
- 2 顔のリンカクを描く。
- 3 リンキ応変に対応する。
- 4 高層ビルがリンリツする。
- 5 フウリンをつるす。

c カキョウ

- 1 責任をテンカする。
- 2 将来にカコンを残す。
- 3 カブンにして知らない。
- 4 機械をカドウさせる。
- 5 けが人をタンカで運ぶ。

d アヤツリ

- 1 プレゼントをホウソウする。
- 2 文章の間にイラストをソウニユウする。
- 3 ラジオタイソウを日課にする。
- 4 悪習をイツソウする。
- 5 ソウチヨウな音楽に聞き入る。

e コンセキ

- 1 現場にケツコンが残っている。
- 2 たくましいショウコン。
- 3 コンダン会に出席する。
- 4 ツウコンの極みである。
- 5 土地をカイコンする。

問(二)

空欄 A

E

を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選んでは

いけません。)

A || 6

B || 7

C || 8

D || 9

E || 10

1 役割

2 経験

3 身体

4 世界

5 感動

6 市場

問(三)

傍線部(1)「素直に楽曲それ自体に感興を覚えるのが難しい時代ではなからうか」と筆者が述べる理由としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 11

- 1 現代は、以前よりも音楽が抽象化、難解化したから。
- 2 現代は、私たちの感性が研ぎ澄まされているから。
- 3 現代は、音楽が消費するべき商品になっているから。
- 4 現代は、真の芸術が生み出されにくい時代だから。
- 5 現代は、私たちの耳が肥えて、感動に飢えているから。

問(四) 傍線部(2)「話は逆だ」とはどういうことですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

- 1 真の芸術が人々の目の前に現れないのは、芸術に感動する感性が失われているからではなく、そもそもそのような芸術が存在しなくなったからだということ
- 2 現代人が音楽に感動できないのは、芸術的音楽が生まれにくいからではなく、音楽商品が流通する市場的価値観に惑わされて芸術への感性を失ったからだということ
- 3 音楽を消費することが当たり前になってしまったのは、人々が音楽の消費者になったからではなく、音楽そのものが商品になってしまったからだということ
- 4 近頃の音楽界に感動が足りないのは、人々の感性が鈍ったからではなく、そもそも真の音楽に対する人々のニーズが存在しようがないからだということ
- 5 新しい響きが生み出されないのは、真の芸術が存在しないからではなく、人々がそのようなものがこの世に存在することを想像すらしないからだということ

問(五) 傍線部(3)「消費者としてのふるまい」の具体例としてふさわしくないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

13

- 1 大枚を払ってウィーン・フィルのコンサートに行ったけれど、それほどよい演奏とも思えなかった。
- 2 レビューで評価の高いCDを買って聴いたところ、音はクリアで立体感があり、高評価もうなずけた。
- 3 たまたまFMラジオで聴いた曲が無性に切なかつたので、その曲名を調べてさっそくCDを買った。
- 4 彼女がジャズはあまり聴いたことがないと言うので、ジャズの定番中の定番と言えるCDを買って彼女に贈った。
- 5 娘にピアノを習わせたいと思っていたところ、音大出身の先生が教えていることを知り、習わせることにした。

問(六) 傍線部(4)「ブレイクスルー」とは「難関・妨害などを突破すること」の意です。ここでこの言葉が使われている理由の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 14

- 1 高度な演奏スキルを身につけるためには、並々ならぬ練習の積み重ねを必要とするから。
- 2 感動的なレッスンとは、体験したことのない未知なる高みへと自分を導いてくれるものだから。
- 3 優れた教師について練習するのであれば、感動的なレッスンを体験するのは困難だから。
- 4 市場に提供されたレッスンは、演奏スキルを身につけるためのサービスでしかないから。
- 5 レッスンによって到達するべき目標を明確に自覚してこそ、そこに向かって飛躍できるから。

問(七) 傍線部(5)「音楽に対してへりくだる柔らかなころ」と対照的に用いられている本文中の言葉を、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 15

- 1 想像
- 2 衝撃
- 3 ニーズ
- 4 驕りおごり
- 5 感動

問(八) 傍線部(6)「ナイーブな」のここでの意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 16

- 1 曖昧で難解な
- 2 繊細で純粹な
- 3 安易で空虚な
- 4 甘美で高潔な
- 5 単純で素朴な

問(九) 傍線部(7)「それは必ずしも真実ではない」とありますが、その理由としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。
い。 17

- 1 作曲家といえども、自分の音楽の商品価値を理解しているとは限らないから。
- 2 演奏者には作曲家の意図した音楽を忠実に再現することは原理的に不可能だから。
- 3 本来、演奏家には作曲家の意図を無視して思い通りに演奏する自由があるから。
- 4 音楽とは、作曲家、奏者、聴き手の共同作業によって演奏現場に生成するものだから。
- 5 作曲家の意図した音楽と、演奏家によって再現された音楽の巧拙とは無関係だから。

問(十) 本文から次の文が抜け落ちています。どこに戻すのがふさわしいですか。後群のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 18
音楽自身に、だ。

- 1 (1)
- 2 (2)
- 3 (3)
- 4 (4)
- 5 (5)

問(十一) 本文の内容と合致するものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 19

- 1 いまや音楽に関するいっさいが市場にあり、真の芸術たりうる音楽も市場から手に入れることができる。
- 2 「月光」や「運命」、「田園」などは通俗名曲に堕してしまったために、感興を得るのは困難である。
- 3 音楽と謙虚に向き合える人間だけが、作曲家の表現意図や奏者の訓練の苛酷さを理解できる。
- 4 現代の音楽環境においては、自分の存在を揺すぶられるほどの感動を音楽から得るのは容易でない。
- 5 昔の人々が音楽から人生が変わるほどの衝撃を受けたのは、演奏家も聴衆も未熟だったからにすぎない。

2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

なるべくなら自分に正直に生きたい。またそう生きなければ信用もされなはずだ。品行は悪くても品性だけは後ろ指を指されたくない。人にならなければならない感情を抱いたこともあるし、なぜそこまで人を陥れるのかと不思議に感じたこともある。

世の中にはいろんな人間がいて、自分が想像もしなかったことをかंगाえている人間はいくらでもいると気づくのは、ずっと歳を重ねてからのことだが、そう気づいたところでもかंगाえまくいくということはない。

うまくいかないのが人生で、これを克服していくのが生きる愉しみだと悟るしかないが、若いうちには自分中心なもののかंगाえ方になりがちで、そのために不満も不平も募っていく。彼らのわがままも他人を顧みない行動も、それらの感情の証だとおもえば許せる気持ちがあくかもしれないが、こちらは狭量なのでなかなかそうはなれない。

(イ) ものごとがあまりうまくいった例がないこちらとしては、おいおい、そんなことでは一生を生きていくことなんかできないぞ、と小言のひとつでも言ってみたくなる。生きていけば挫折などあたりまえのことだ。最近のこどもたちは人生に挫折なんかなくともっているのではない。思い通りにいかないと当たり散らしたりする。

それがなんの解決策にもならないということにも気づかず、つい自分中心のものの考え方をしているが、とみに(1)そういふこどもたちが増えていくのではないか。わたしは十六歳の息子が理不尽なことやわがままを言ったら、すぐに叱ることにしている。親が注意したり叱ったりしなければ誰かやるんだとかंगाえている。

先日、そのできの悪い息子が、とうとう取りをとったぞと威張って帰ってきた。ついに成績が(注)どんじりになったということだったらしいが、本人もさすがにまずいとおもったのか照れを隠すように言った。

好きなおんなの子でもできれば、(2)その気になるだろうぐらにかंगाえているので、そうかと応じてやった。どう生きるかが問題で、そのための練習をしているのが彼のいまの段階だ。それは学校の成績とはあまり関係がない。ただしこちらはあまやかさないぞという気骨だけはある。

「おまえねえ。少しはかंगाえているのか」

「てるる」

「どういうふうに」

「だからいろいろさ」

息子は言い張った。(口) 気持ちはあるらしくても、相手のおしゃべりが具体的でないからこちらはなにもわからない。わたしはしかたなく、一芸に秀でて家族を養えればいいんだからなと手を差し伸べてやった。

「芸を研ぐには、なんでもこつこつとやるしかないんだぞ。そうするとちよつとしたことがヒントになって、大きく変わるんだよ」

「わかんねえよ。そんなこと」

「人生もほんの些細なことで、その後、大きく変わっていくということだ」

わたしは(3)にやついている妻の目を気にしながら偉そうに言った。

「芸のためなら女房も泣かす、という歌もあったでしょう?」

ふだんは口数が少ない妻が応じた。きのう(注2) 都はるみがテレビで歌っていたのを聴いていたのだ。わたしは彼女の突っ込みに思い当たることもあり、(4) 即座に返答ができなかった。

「いろいろあるよな」

こちらはしかたなく息子の口真似をした。

「だろう?」

「まあな」

息子は話が自分の成績から外れていくのがうれしかったのか、明るい声で言った。

「親がなにも言わないことにあまえて、勝手やっているんじゃないのか」

「そうでもないだろ」

「なにか一芸に秀でたいものをそろそろかんがえろよ」

「ラーメンと(注3) アームレスリングだな。やっぱり」

相手はひまがあればあちこちのラーメン店をまわっている。休日も同級生と落ち合っ出て出かけている。(ハ) 週に二回はアームレスリングで帰りが遅い。二十一歳までのジュニア部門で二位になった。つきは日本チャンピオンだと夢中になっている。腕力だけは確かにある。その分、机にむかう時間などどこにもないのだ。

「たまには(5) 相撲でもとるか」

わたしも相撲や柔道には多少の心得があるはずだった。半年前まではまだ一度も息子に負けていない。親の威厳をみせてやろうと公園に行きから

だをぶつけると、いつのまにか強くなっていてわたしは負けた。

「こんなはずじゃないと二度目は放り投げると、三度目は相手もむきになった。おたがいにわざを掛け合うと、力の強い息子がこちらのからだにのしかかり、わたしは尻から落ちた。その瞬間に背骨がぐしゃりと鳴った気がして、そのまま動けず息もまともにできなかった。

(二) わたしはそのまま救急車に乗せられて病院に担ぎ込まれた。検査をすると背骨が圧縮されていて、背中は腫れ上がっていた。命に別状はなかったが医者にはわらわれた。こちらは自分が投げられることなどまったく想定していなかったのだ。

「危ないところだったな、お父さん。だからむりをするなど言っただろ。ちょっとしたことでは人生は変わるんだからな」

相手はわたしの言葉を逆手にとつてにやついていたが、心配そうな目はしていた。偉そうに品性のことなどを言ったから、罰があたったかとおもったが、あまえるよりも五十六歳の男親を投げ飛ばし、怪我をさせたという負い目のほうが、今後には役に立つのではないかと、心の中で負け惜しみを言った。

それから男としての力関係が逆転したような哀しみの気持ちと、なんだかんだと言いながら、相手も成長しているんだなという感情が交錯して、複雑な気持ちになった。

もうこれからは大きなことは言えないし、言ってもあまくみられるのがしゃくだなとそっぽをむいていたが、相手は自分をはじめ勝った上、男親がコルセットをつけて、妻に靴下まで穿かせてもらっている姿を見てにやにやしていた。(ホ) おとなしい妻がわたしの仇をとるように、親が一生治らない怪我をすることで、その顔はないでしょと一喝した。

わたしはその姿を見て、妻はこちらを見限ったのではないかと感じた。彼女はひよつとしたら、わたしがあてにできなくなったから、今度は息子に対して自分が強くなるしかないとおもったのではないか。息子は一瞬ひるみ、なんだよおと口を尖らせた。こどもへの接し方という面からいえば、彼女のとっている行動は悪くはない。

「やろうと言ったのは、お父さんのほうだぞ」

息子は言い訳をするように応じた。

「そうかもしれないけど、なんでも手加減というものがあるでしょう」

相手は理不尽な怒られ方をしているとかんじたのか、わたしを見た。妻の言うことは確かにそうだ。こちらはまだ息子に負けるはずがないと思いついていたから、手をゆるめることができるとおもっていたのだ。相手にはそれがなかったのだ。それは巷で(6)に振る舞っていること

「必死だったのはお父さんのほうだったんだからな」

それも間違いはなかった。こちらのプライドがむきにさせていたのだ。今後こういうことは一切やめてくれという妻に、わたしたちは異議などとなえる理由はない。息子が風呂に入ると、わたしは、結構すごいねと感心した。わたしは遅たくましくなった息子と妻を同時に見る羽目になり、自分の立場がせばまった気にもなったが、⁽⁷⁾息子がことさらにあまえる土壌は、この家にはないかと安心した。

これからは共同戦線を張ろうと言うと、相手は、結構です、わたしはそういうのはいやですから、とびしゃりと言いつつ切られてしまった。その言葉を聞いて、わたしは早く元のように健康になろうと決心した。あまり強くなる妻も見たくないし、もう少し威張る親をやりたいのだ。

(佐藤洋二郎の文章による)

(注1) どんじり＝最も末であること。びり。

(注2) 都はるみ＝一九四八年。女性演歌歌手。一行前にある「芸のためなら女房も泣かす」は都はるみの『浪花恋しぐれ』という歌の一節。

(注3) アームレスリング＝腕相撲に似た競技。

問(一) 傍線部 a～j の漢字の読みが間違っているものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

i 1

ii 2

i 1 a 「陥」＝おちい

2 b 「募」＝つの

3 c 「顧」＝かえり

4 d 「狭量」＝きょうりょう

5 e 「秀」＝ひい

ii 1 f 「担」＝かつ

2 g 「腫」＝は

3 h 「逆手」＝さかて

4 i 「交錯」＝こうさく

5 j 「一喝」＝いつけい

問(二) 空欄 (イ) (ホ) を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選

んではいけません。)

イ 3

ロ 4

ハ 5

ニ 6

ホ 7

1 それに

2 しかし

3 また

4 そして

5 すると

6 だから

問(三) 傍線部A「とみに」、B「理不尽な」の意味としてふさわしいものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

A || 8

B || 9

A 「とみに」

- 1 おそらく
- 2 もちろん
- 3 にわかに
- 4 とにかく
- 5 ますます

B 「理不尽な」

- 1 勝手気ままな
- 2 分不相応な
- 3 筋の通らない
- 4 理屈っぽい
- 5 生意気な

問(四) 傍線部(1)「そういう子どもたち」とはどのような子どもたちですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を

マークしなさい。 10

- 1 自分中心の考え方をするために、挫折をしたことがない子どもたち
- 2 一度挫折をすると、もう立ち上がれないと思つて当たり散らす子どもたち
- 3 自分中心の考え方ではなんの解決策にもならないことに気づかない子どもたち
- 4 自分中心の考え方をして、思い通りにいかないと当たり散らす子どもたち
- 5 解決策がないことに気づかず、思い通りになると思い込んでいる子どもたち

問(五) 傍線部(2)「その気になるだろう」とありますが、「その気」の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしな

さ。 11

- 1 自己中心的な態度を改めようとする事
- 2 女の子に告白しようとする事
- 3 勉強に精を出そうとする事
- 4 どんじりを恥じようとする事
- 5 一芸に秀でようとする事

問(六) 傍線部(3)「にやっついてる妻の目」とありますが、ここから妻のどのような様子が読み取れますか。その説明としてふさわしいものを、次の

ちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 12

- 1 「わたし」と息子の親子の対話を好ましく思い、微笑みを浮かべながら眺める様子
- 2 「わたし」と息子、どちらの言い分が的を射ているかを判定しようとする様子
- 3 「わたし」の言うことに一貫性がなく、また要領を得ないことをあざ笑う様子
- 4 「わたし」が自分の過去を棚に上げて息子に説教する姿が滑稽で苦笑する様子
- 5 「わたし」が息子をたしなめることに賛同し、「わたし」の肩を持つような様子

問(七) 傍線部(4)「即座に返答ができなかった」のはなぜですか。その理由としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしな

い。 13

- 1 かつて自分を悲しませたことを示唆する妻の皮肉っぽい言葉が胸を突いたから。
- 2 「芸のためなら女房も泣かす」という歌詞の意味がよくわからなかったから。
- 3 妻がなぜ都はるみの歌の歌詞を持ち出したのか、見当もつかなかったから。
- 4 妻の突っ込みに対して息子がどのように反応するか、予想できなかったから。
- 5 ふだん口数の少ない妻が思いを口にしたことが意外で、戸惑ってしまったから。

問(八) 傍線部(5)「相撲」は二字で「すもう」と訓読みする熟字訓です。同じように読むものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- 1 脇役
- 2 為替
- 3 膝頭
- 4 錠前
- 5 耽溺

問(九) 傍線部(6)「巷ちまたで

クしなさい。

15

- 1 疑心暗鬼
- 2 天真爛漫らんまん
- 3 支離滅裂
- 4 傍若無人
- 5 勇猛果敢

問(十) 傍線部(7)「息子がことさらにあまえる土壌は、この家にはないかと安心した」とありますが、ここに至る「わたし」の心情の推移の説明として

ふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

1 息子に投げ飛ばされて怪我を負ったために、妻に見限られてしまい、悲しくなった息子と妻を同時に見て、自分の立場が狭まったと思いはしたものの、息子が甘える土壌はこの家にはないと思って安心した。

2 息子に投げ飛ばされて怪我を負ったけれども、息子も心配そうな目をしていたし、妻も自分の仇をとるように息子を叱ってくれたので、これも怪我の功名だと思い、息子が甘える土壌はこの家にはないと思って安心した。

3 息子に投げ飛ばされて非常に口惜しいと思う一方で、怪我をさせたという負い目が今後役に立つのではないかと思い直し、また妻が強くなることに不安を覚えましたが、最後には息子が甘える土壌はこの家にはないと思って安心した。

4 親の威厳を見せようとしてかえって息子に同情されるといふ、父親として情けない目に合ったけれども、妻が自分の肩をもってくれて、息子を手厳しく叱りつけたので、息子が甘える土壌はこの家にはないと思って安心した。

5 自分と息子の力関係が逆転して息子に逞しさを感じると同時に、自分が強くなるしかないかと思っている妻の様子を見て、もう息子が甘える土壌は我が家にはないと安心した。

問
(土)

本文の標題としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

- 1 父と息子の確執
- 2 最近のこどもたち
- 3 親父のプライド
- 4 夫婦の駆け引き
- 5 怪我の功名

設問は以上です。